

水分量の自動計算で、A品率を25%向上

AI

可視化

データ共有

申請事業者：中城農園（宮崎市）
業 種：農業

従業員数：5名
設 立：1999年



適切な水と肥料の量をAIが自動で計算し、根拠にもとづく栽培を実現！

取組の概要

導入部門：きゅうりハウス

導入業務：水と肥料の供給業務

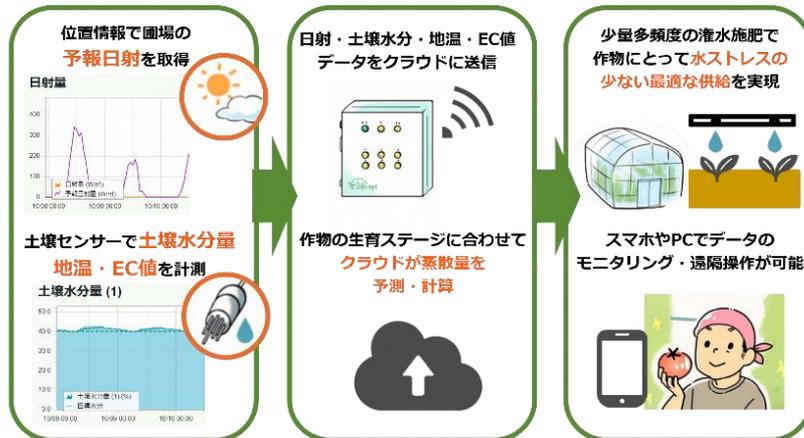
導入目的：手作業で行っていた毎日の業務の負担を軽減するため

導入技術：AI灌水施肥システム「ゼロアグリ」

導入手法：土壌センサーで取得した「土壌中の情報」と位置情報で取得した「予報日射量」から計算された水量を自動で供給。

供給量はクラウドに自動保存し、スマホで遠隔操作を行う。

導入費用：¥6,310千円（税抜）



取組の背景

●抱えていた問題点

- ①天候に応じて供給量を調整する必要があり、負担が大きく、他の作業に十分に手が回らないために品質や収量が安定しない。
- ②土の中の状況を把握できておらず、担当者の経験と勘で供給量を決定している。

●解決に向けた課題設定等

- ①AIが適切な供給量を定めることで、調整する時間を削減。
- ②土壌センサーで水分量や地温等を計測できるため、土の中が可視化され、根拠にもとづく栽培が可能に。

取組の成果

・水と肥料の供給にかかる時間を、83%削減
水と肥料を供給する時間 30分/日 → 5分/日

・肥料の量を、30%削減
液肥の量 100kg/月 → 70kg/月

・きゅうりのA品率を、25%向上
異常のアラート通知により、作物のしおれや水のやりすぎを防ぎ、
A品率 50% → A品率 75%